

令和7年9月 教育委員会定例会（意見交換）

開催日時：令和7年9月24日（水）

テーマ：①リベラルアーツ教育について
②教科担任制について

【意見交換】

○教育長

最近、近江八幡市の図書館でお借りして読んだ本がある。加谷さんというエコノミストの方で、テレビの解説等でよく出ておられる方が本を出されて、「本気で考えよう！ 自分、家族、そして日本の将来」という題だったと思うが、当然エコノミストなので日本の経済の変遷や公的年金の変遷、プライマリーバランス等について、いろいろ解き起こして分かりやすく解説している本になるが、そこで言われていることというのは、「これからは、自分自身が家族のことや家庭のこと、それから自分自身の生き方等を自分で描いて、考えて生きていく必要がある」ということをおっしゃっている本で、生き抜く力が要るということを、経済方面から自分の経験も合わせておっしゃっている。そういうものを読むにつけて、我々のような教育に関わる者も、やはりそういうことにしっかりと視野を広げながら、子どもたちの教育を考えていく必要があるのではないかと改めて思った。

それと、冒頭に少し申し上げたが、「リベラルアーツ」という言い方をすると、教育現場の方々は「一体それは何？」ということから始まるが、そうではなく、もうそのことが教育関係者の常識となって「それって何？」から始まるのではなく、それを理解した上で、「今後の教育をどうしていくか」という議論が自由にできるように、まずはしていく必要があるのではないかと思いますながら先日の研修を聞いており、それが皆様方にお渡しした文章である。

先ほどの40分授業の件にも関わってくるのだが、45分の小学校の授業でそれぞれの教員の方がそれぞれの経験に基づいて、また、学級担任という全ての教科を全部教えるというその範疇の中で、自分の経験と知識の積み重ねの中で全ての教科の授業をこなしていただいている。そうしたときに、本当にその45分の中でどういう授業がなされているのか。いわゆる基礎的な、その教科ごとの内容を分かりやすく生徒に指導しておられるのか。あるいは一歩進んで、その教科の授業の中でも他の教科や社会の動きと関連付けて、深い授業をされているのか。現実には、その教員によってまちまちだと思う。それプラス総合学習が学校の実情であって、子どもたちは各教科の中でも、教員によってはいわゆる他のこととも関連付けて学ぶ機会があったり、教員によってはなか

ったりする。それと、総合学習はどこの学校でもそれなりの総合学習があると思うので、総合学習の時間にそれまでに得た知識や情報をもとにしながら、いろいろな方と対話を重ねる中で体系的な学びを、新たな繋がりのある学びをしているのだろうと思う。今回本市は、教科担任制を緩やかに滑らかに導入していくということになっていくと、基本的には学級担任はそのままあるわけだが、その担任1人1人の教員の方々が「私は、体育を専門的に、横断的に教えます」といった形で教科ごとのスキルをアップされると思う。中には、苦手な教科にチャレンジされる教員もおられて、総合的にそれぞれの教員の教科の授業力がアップしていく。これをうまく進めていくと、学年縦割りで教科部会のようなものが生まれて、さらに自分たちの指導力を向上される可能性がある中で、この40分授業は可能なのかどうかということについて、体験的に、実践的に、研究的に見えてくるのではないか。このように私は頭の中で思っているのだが、そういう状況が共有できるようになった段階で、教科担任制のその先には40分授業と、そのことによって生まれた新たなコマ数をどのような探究学習をすると、いわゆる「星空の中」に子どもたちが自由に自分の興味関心に基づいて、感性に基づいて「星座」を描けるのか。そのようなことができる学習は、どうあるべきか。そういうものが具体的にできてきたときに、本市において40分授業とその余裕によって生まれた総合学習が確立するし、先ほどからご議論があった働き方改革にも一部還元するのかどうか。還元するとしたら、早く子どもたちが帰る部分も週のうちに2日ぐらい出てきたときに、子どもの居場所をどうするかということについて他の部局や関係者と連携していくことであったり、保護者の理解を得ることであったり、そういうことがだんだんとイメージとして見えてくるようになるのではないかと考えている。

要は、リベラルアーツ、自由に星座を描く技術は、本市においてどうあるべきなのか。そこを皆さんと共有しながら、教育委員会の委員の皆さんと共有はもちろんだが、あらゆる教育関係者、保護者と共有していく必要があるのではないかと考えている。

では、「その前提となる教科担任制は、うまく進んでいきそうなのか」というところだが、最近学校教育課の方で子どもたちにアンケートを実施した。まだアンケート結果はまとまってはいないが、どうもその方向性を見ていると、子どもたちは歓迎しており、それほど違和感を持っておらず、むしろ歓迎しているという結果がまとまりそうであると報告を受けている。

全国的に教科担任制を進めているところで生徒にアンケートをとると、そういう傾向があるということで、果たして本市はどういう結果が出るのか心配していたところであったが、一応歓迎しているようである。「いろいろな先生と関わることができ、相談する人が多くなった」というような、歓迎するようなことになっている。

このことは、教科担任制を今試行していただいている教員の方にも還元する必要がある。子どもたちがどう捉えているかということも、教科担任制を緩

やかに滑らかに進めていく中で情報共有しながら、その先はどういう教育をしていくのかという展望が私は必要だと思っており、その一つの生き抜く力を育成するための総合教育のあり方、探究学習のあり方、そういうものを目指していく、そこまで行き着く方法としては、40分授業というのも一つの方法ではないか。それと決めたわけではないが、そういうビジョンをしっかりと検討する場として、先ほどの要綱にあったような場で検討していきたいと思っている。ただ、それが今年度の末までに到達できるということに関しては、少し難しいと思っている。始業時期をどうするかということ等は結論を得られると思うが、いわゆる40分授業についての結論は早々に得られるものではない。そのため、来年度は、やはりそういうものをしっかりと議論するような場が必要であると考えており、総合教育会議の中で、あるいは教育大綱の中で、そのものずばりを出す必要はないと思うが、そういったことが読み取れるような教育大綱であるべきだと思っている。それを受けた来年度の計画では、明確にそういう方向性を審議の場も含めて打ち出していく必要があると考えているが、このことについて、もしご意見があればお願いしたい。

話題提供をさせていただいたが、ほかのことでも結構なので、ご意見があればお願いしたい。

○大更委員

リベラルアーツ云々については、話を聞かせてもらって「なるほどな」と思った。

全然違う話になるのだが、最近海外青年協力隊の数がどんどん減ってきているということである。いろいろなところに行って、いろいろな支援をあげようという人が減ってきているということである。

少し前に、アフリカのある国で農業をして、トウモロコシか何かを作って、収穫するときに歓喜で沸いたというようなことが書かれた本があった。

自分がきちんと生きていけたらいいということも大事だと思うが、できることなら、自分もそうだが周りの人たちも皆で助けてあげられるようなこと、それにはどのようなことができるのかというようなことも、子どもたちの気持ちに芽生えたらいいなと思う。

日本の国が良くなるだけでなく、いろいろな国や地域のことを学ぶ中で、「将来僕は、どういうことで社会に貢献できるだろうか、助けてあげられるだろうか」というようなことが絶えず頭の中にあるような、そういうような子どもたちになってほしいと思っている。

だから、教育大綱の中には、なかなかそういうことは入れられないかもしれないが、学びの中には、そういう要素が欲しいと思っている。

○教育長

大事なことだと思う。養護学校の「ようこそ先輩」の近江八幡市版のような

形としてやれば、子どもたちはそういう気持ちを抱くようになるのではないかとも思う。

○重森委員

大更委員がおっしゃったことにも関わるかと思うが、先週火曜日に野洲養護学校で「ようこそ先輩」というものがあったのだが、2人卒業生がいて、この子どもたちは何でこれだけ頑張れているのだろうかと思った。

特に、養護学校を卒業して7年になる25歳の卒業生は、なぜそこまで頑張れるのかと考えてみたところ、高等部にいたときから見返りを期待せずに、いつも自然体で周りの皆を喜ばせることがとても好きな子だった。彼が関わったことで、周囲の人から「ありがとう」と言ってもらえる、そうした経験を周りの生徒よりいっぱいしていた。彼がしているメンテナンスという仕事は地味な仕事だが、トイレ等を綺麗にしていたときに使っている人が「ありがとう」と言ってくれて嬉しかったとか、困っている人がいたときに手を差し伸べて感謝されて嬉しかったとか、そういう経験をたくさんしてきたことで、少しぐらいしんどいことがあっても頑張ろうという気持ちが持てているのだろうなと思った。

それと、研修会で松丸先生のお話では、「知識は星空で、自分で星座を描く力が必要だ」とおっしゃった。知識や情報というのはたくさんあって、それをとてもたくさん持っている人もいるけれども、知識や情報を本当にその人が知恵として発揮できているか。本をいっぱい読んでいるかもしれないが、その人がそれを生活に役立てることができているのだろうか。知識や情報の引き出しをたくさん持ったら、その引き出しから引き出して、知恵として発揮できる人になってくれたらいいなと思う。その辺をもっと進めていけば、その人も光り輝いていくし、周りも良くなっていくのではないか。教育長のお話を今日あらためて伺ったときに、そのように思った。

○教育長

自分が賢く生き抜くとか、独りよがり生き抜くとか、そういうことではない。重森委員のとおりだと思う。

先ほど冒頭に加谷さんの本の話をしたが、先生は世界で本当の意味において成功している人たちの本を全部読んだらしく、その中で共通項を自分で見つけられた。例えば、「自分がやられて嫌なことは、他人にしない」ということを聞いている。大概の人は「これは正しい」とするわけだが、成功者はそうではなくて、「人が喜ぶことをする」というのが正解らしい。

だから、先ほどのように、人が「ありがとう」と言ってくれることや喜んでくれることに焦点を当てて生活をし、積み重ねていくと成功するパターンになる。そのように書いていた。自分がされて嫌なことは、必ずしも他人もされ

たら嫌なのかどうかは分からない。他人が喜ぶことをするという事は、もう確実にその人が喜ぶということを見抜いてするわけだから、必ず喜ぶ。そういう積み重ねでもって、いろいろ自分が達成したいことを達成できやすくなるということが書かれていた。

○教育長

ほかにご意見はよろしいか。

それでは、総合教育会議で議論するに当たって、今後もこの定例教育委員会ごとに自由な意見交換をさせていただきたいと思っているので、よろしくお願い申し上げます。